









|            |   |                |  |  |  |
|------------|---|----------------|--|--|--|
| 分野         | <input type="checkbox"/> カーボンニュートラル <input type="checkbox"/> デジタル化（生産性向上、自動化/省人化）、IoT<br><input type="checkbox"/> BCP（防火・防災）/安全 <input checked="" type="checkbox"/> その他（シンプル・スリム・コンパクト、品質向上等） |                |  | 問合せ先   | URL: <a href="https://www.oshimazoen.co.jp/">https://www.oshimazoen.co.jp/</a> |
|            |   |                |  | 部署名: 企画開発・デザイン室                                | TEL: 052-221-1358  |
| 展示No       | 提案名   | 工法             | 新規性  | 担当名: 安田直樹                                      | メールアドレス: yasuda_n@oshimazoen.co.jp   |
| 75         | 手軽にはじめる自然共生への取組み  | 簡易ビオトープ        | 小規模・低コスト   | 主要取引先  | 海外対応 <input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 否          |
| 会社名        | 所在地   |                | トヨタ自動車(株)、(株)豊田自動織機、トヨタ紡織(株)、トヨタ車体(株)、トヨタ不動産(株)、(株)豊田中央研究所、ダイハツ工業(株)、三菱重工業(株)、東レ(株)、国土交通省、(独)都市再生機構、NEXCO各社、名古屋市、他 |  |  |
| 大島造園土木株式会社 |   | 名古屋市中区栄1-10-34 |  | ※生産拠点国<br>中国<br>※トヨタサントリーミドリエ(上海)園芸有限公司との連携による |  |

<< 提案内容 >>

|  |  |   |                |               |              |       |
|--|--|---|----------------|---------------|--------------|-------|
| 提案の狙い  | 希望提案先  |   |                |               |              |       |
| 手軽に始められる自然共生活動のご紹介<br>自然共生活動に取組む人材育成のためのツールとして活用   | 自然共生の取組みを始めている企業様<br>これから自然共生の取組みを始めようとしている企業様   |   |                |               |              |       |
| 従来   | 提案内容（技術・製品・サービス）   |   |                |               |              |       |
| <b>■これまでの自然共生への取組み例</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大規模なビオトープの新たな整備や改修</li> <li>○ 里山保全などを通じた生物多様性の保全</li> <li>○ 植樹祭の開催など植樹活動</li> <li>○ 環境学習イベントの開催</li> <li>○ 特定外来生物の駆除活動</li> <li>○ 絶滅危惧種の保全</li> <li>○ 河川敷や海岸などの清掃活動</li> </ul>   | <b>■簡易湿地による自然共生への取組み開始</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ トロ舟(プラ舟)を用いた1m2程度～の湿地環境(簡易ビオトープ)を創出する(右・下写真は設置例)</li> <li>○ 周辺環境の調査から飛来する生きものを推測し、導入する湿地環境(植物種、水深など)をご提案</li> <li>○ 水分条件の設定や植物種の選択により、様々な湿地環境を整備可能</li> <li>○ 水分環境の維持に雨水利用の仕組みを取り入れることも可能</li> </ul>       |   |                |               |              |       |
| <b>■課題</b><br>いざ始めようとするとなかなかハードルがあり、自然共生への取組みは簡単に始められないと感じている企業が多い <ul style="list-style-type: none"> <li>→ ビオトープの用地確保や整備のコストが確保できない</li> <li>→ 指導・協働してくれる専門家やNPOなどのパートナーがない</li> <li>→ 社内に専門知識を持った人材がない</li> <li>→ 身近に特定外来生物や絶滅危惧種が存在しない(知らない)</li> <li>→ 活動のために休日出勤する必要がある</li> <li>→ 取組みを継続していくことができるか不安</li> </ul>   | <b>■利点</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自社内の身近な環境で小規模かつ低コストに取組み可能</li> <li>○ 生きもの生息空間の創出により地域の生物多様性保全に貢献</li> <li>○ 従業員による日常的な管理・観察をとおしてエコ人材育成</li> <li>○ 自然共生活動を展開していくためのトライアルと位置づけ</li> </ul>    |   |                |               |              |       |
| セールスポイント   | 問題点（課題）と対応方法   | 開発進度  | （ 2024年 8月 現在） |               |              | 特許の有無 |
| ①小さなスペースと投資で自然共生への取組みをはじめられる<br>②社内のエコ人材育成に貢献<br>③ランニングコストはほぼゼロ<br>④SDGsの達成にも貢献  | ①水分条件などの環境を維持するノウハウが必要<br>→ 弊社スタッフから管理方法のアドバイス<br>②集まる生きもの種類や数が不確実<br>→ 周辺環境の調査から飛来する生きものを推測し、それに合わせた条件設定をご提案  | <input type="checkbox"/> アイデア段階 <input type="checkbox"/> 試作/実験段階 <input type="checkbox"/> 開発完了段階 <input type="checkbox"/> 製品化完了段階 <input checked="" type="checkbox"/> 納入実績有 |                |               |              | 無     |
| 従来との比較   | 項目   | コスト   | 質量             | 生産/作業性        | カーボンニュートラル効果 |       |
|  | 数値割合   | 1か所あたり10万円から始められる   | —              | 小規模、低コストに取組める | —            |       |